

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分野	福祉支援工学
学籍番号	19S3059	院生氏名	和田 直樹
通学キャンパス	赤坂キャンパス		
論文題目	高齢者の座位から斜め前方への歩行開始動作の分析		
審査結果(枠で囲む)	合格		
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文について</p> <p>本研究は転倒の発生機序として代表的な過渡動作である、座位から斜め前方への歩行開始動作における Side step(以下、SS)と Crossover step(以下、CS)の動作戦略を明らかにすることを目的とした研究である。対象は若年者 19 名と高齢者 14 名とし、三次元動作解析装置と床反力計を用いて SS と CS を計測した。その結果、高齢群 SS で重心速度の減少が大きく、支持脚の股・膝伸展モーメントは CS と高齢群の要因で小さく、膝内旋モーメントは CS と高齢群の要因で大きいことが分かった。SS は若年群で支持脚の股・膝伸展モーメントが大きく速い移動に有利であり、高齢群は進行方向への重心速度を減少させることで安定性に有利であった。CS は若年群で支持脚の股・膝伸展モーメントが小さく安定していたが、高齢群は支持脚の股伸展モーメントに加え膝内旋モーメントがブレーキ作用に関与していた。高齢群は CS に困難さを感じているが、日常的に CS を実施しており、支持脚の膝関節の外旋の抑制や膝関節周囲筋の強化の必要性が示唆された。</p> <p>研究方法、論証、論文の形式はいずれにおいても博士論文として適切であり、倫理的問題についても研究倫理指針を良く順守した研究であった。</p> <p>本研究の新規性は斜め前方への STW に関して、矢状面(前後方向)のみでなく前額面(左右方向)への Fluidity Index を算出・比較する点と、高齢群の STW におけるステップも計測している点にある。また、本研究の臨床的意義として、生活場面・臨床場面で行われる代表的な過渡動作である STW のステップ動作を研究し高齢者の特徴を明らかにしており、転倒予防に貢献する研究であったと高く評価できる。</p> <p>2. 審査経過</p> <p>12 月 10 日に審査会を開催し口頭試問を行った。口頭試問において適切に応答がなされていた。論文の構成や文章の形式などについて修正が必要な箇所が指摘され、論文の修正と再提出を求めた。12 月 24 日に修正された論文が提出され、指摘事項について適切に修正された。</p> <p>3. 合否</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(保健医療学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主査	石井 慎一郎	
	副査	前田 佑輔	
	副査	荒川 博美	